

第3回 有田町立学校施設整備基本構想・基本計画策定委員会

日時 令和8年3月11日(木) 18:00~
場所 有田町生涯学習センター 視聴覚室
(出席者 委員12名)

事務局：開会に先立ち、委員の交代についてお知らせする。有田町財政課長の退任に伴い、総務課長に委員を交代することとなった。なお、新委員である川原は、本日は所要のため欠席している。

1. 開会（委員長あいさつ）

委員長：お疲れのところ、お集まりいただき感謝する。新しい中学校をどう創っていくか、本日も気力を振り絞って共に考えていければと思う。

1月末には、子どもたちのワークショップを現地でご覧いただき、実際に校舎ができる場所をイメージしながら、子どもたちの活気ある姿を見ていただけたことと思う。本日の協議事項はどれも非常に重要な項目だが、特に後半の④⑤についてはしっかりと時間をかけて議論したいと考えている。ご協力をお願いします。

2. 協議事項

① 前回の振り返りと検討の進め方（策定スケジュール）

（事務局より資料0説明）

事務局：前回委員会でおおむね合意を得た「西寄せ案」を軸とし、駐車場の不足懸念やアクセス確保といった点について調整を進めている。今後のスケジュールについて、全4回としていた予定を全5回とし、完了時期を5月まで延期したい。本日、基本理念などを議論し次回基本構想案を取りまとめ、4月にパブリックコメントを実施したいと考えている。

委員長：年度をまたぐが、より良い学校づくりのためしっかり詰めていきたいという

ご提案このスケジュールで進めてよいか。
(特に意見無し)

② 意見収集から見た新しい中学校に求められる視点

③ 目指す学校像（基本理念・基本方針）について

(事務局より資料1および資料2説明)

委員長：これからの校舎を創っていくうえでの土台となる、重要な考え方になる。皆さまからご意見をいただきたい。

委員A：「地域と集う」という点について、図書館などを地域の方と一緒に使うイメージをどう考えているか。

事務局：学校単独ではなく、地域に開かれた施設として検討している。セキュリティの課題はあるが、会議室や多目的室の開放、また町立図書館とのバランスも考慮しながら検討を進めたいと考えている。

委員B：他自治体の中学校では、後者の一部にコミュニティルームを設け、外から直接入れるようにして事前予約制で貸し出すところもある。コミュニティスクールとしての標準装備として検討すべきでは。また、公園利用者も利用できるような開かれた施設になれば、多様な方とのふれあいが生まれる素晴らしい空間になると思う。

委員A：今の役場庁舎にある図書館も、学校帰りの子どもたちが勉強でよく使っている。新しく創るなら、親子でも利用したくなる魅力的な施設にしてほしい。

委員C：今私たちがいるこの生涯学習センターも、施設の老朽化が進んでいる。町内の公共施設を集約しながら、新しい学校が地域の核として寄与していく視点が必要だと思う。

委員D：基本理念の「豊かな自然に囲まれ」というのは「学校そのものが」そうなるということと読み取ったが、「地域と集う」の主語は何になるか。

事務局：「豊かな自然に囲まれ」は「学校が」自然に囲まれ、その環境を資源とするという意味。「つどう」についても、「学校が」地域社会と緩やかにつながる場所になることを指している。「未来へつなぐ」はICTなどを通じて次世代の人材を送り出すことを意味している。

委員D：基本理念の「豊かな自然に囲まれ」「地域と集い」「未来へつなぐ」の主語や意図について、尋ねられた際に町民や外部へしっかり説明できるよう、共通認識を持っておきたい。

委員C：これらはすべて、子どもたちが育つ土台となる「学校環境」をどう創るかという基本方針であると認識している。

委員E：この理念はあくまで校舎を建築するうえでの理念であり、開校後の「学校教

育目標」とは切り離して考えるものか。

委員C：遠からず関わってくるものと思う。人的環境も物的環境も教育の一部。学校が建った後の「教育目標」の土台となるのがこの理念であり、環境そのものが子どもたちを育むメッセージになると解釈している。

④ 児童生徒ワークショップからみた「公園と学校の共存」に向けた方向性

⑤ 「新たな中学校」の整備イメージ（案）について

（事務局より資料3および資料4説明）

事務局：ワークショップでの具体的な提案から「互いの価値を高めあう共生可能な配置」「誰もが集う開放性とセキュリティを両立させるゾーニング」の2つを方向性とした。続いて、中学校の配置計画案として3パターンを提示する。

○案1：公園入口側に昇降口を設け、生徒と車両の動線を分離。校舎からグラウンドが見渡せる。

○案2：既存の芝生広場を最大限に残す。ただし、グラウンドが狭くなるほか、テクノ館の解体や高低差解消のための造成コスト増などが課題。

○案3：案1同様に見渡しやすいが、昇降口前の広場確保が難しく、公園入口からの距離が長くなる。

委員長：これらはまだ絞り込む段階ではなく、地質調査などを経て調整していくものと理解しているが、まずはこの3つの案についてご意見を願います。

委員F：どの部分を残すかが大切。テクノ館は耐用年数の問題もあり、「古窯の森」も一部崩壊している現状にある。既存施設との接続性や連続性を考慮し、必ずしも全面をフラットにすることに拘らず、地形を活かす視点もあってよいのでは。

委員B：芝生広場が現在「どの程度」「どのような団体に」利用されているのか、具体的な数値が欲しい。それによって、最低限残すべき広さが見えてくるのでは。

事務局：具体的な申請実績は多くないが、土日には町外からも多くの家族連れが利用されている。また、外周道路はウォーキングコースとして親しまれている。西側の施設は利用頻度が低い状態。

委員A：西側の「冒険の森」あたりは、今は駐車場から遠く暗いために利用が少ないが、学校ができ、案2のように遊具を移設すれば、むしろ利用が増えると思う。案2は一番圧迫感が少なく、芝生もよく見えるので好ましいと感じる。

委員G：学校施設がどの程度まで公園側に食い込むのか。また、駐車場50台分という計画だが、地域開放や行事のときを考えると少ないのではないか。

委員H：空間の有効活用という点からも案2が望ましいと思う。倉庫などの既存施設も一部改修して活用できれば、より良くなるのでは。

委員 I：公園の奥（冒険の森方面）からの出入口を設けるかどうかで、動線や利便性が大きく変わってくるのでは。

委員 D：教室の向きと光の入り方はどうか。南向きが基本かと思うが、西日を避けるなど、教育上の配慮が必要なのか。

委員 E：ICT機器などの故障に関わる恐れがあるので、西日というか強い直射日光があまり入らないようにしたほうが良いかもしれない。

事務局：従来は「南から採光し西側に黒板」という配置が主流だったが、現在はLED照明やICT機器の普及で必ずしもその形に縛られなくなっている。中廊下型にして北側にも教室を配置するような学校も増えており、設計段階で最適な形を検討する予定。

委員 F：公園の出入口は、高低差もあり拡張が難しいのではないかと。改修工事された経緯もあるので、もっと詰めた方がよいのでは。

委員 E：部活動の地域移行も見据え、既存の体育館やテニスコートをどう活用するか、機能面を統合的に考える必要があると考える。

【学校の諸室について】

事務局：内部の諸室については、GIGA構想に対応したICT環境、木材を活用した温かみのある教室、STEAM教育に対応した特別教室などを計画している。なお、プール、窯業室、武道場などは、維持管理コストや利用頻度、既存施設の代替可能性を考慮し、新設校に設けるかどうかから検討事項としている。

委員 J：将来、少子化が進んで教室が余ることも想定すべきでは。進路学習室などの専用室は、将来の余剰教室で補うことも検討し、過剰な整備にならないようにしたい。また、放送室はもはや職員室内のスペースで十分なのではないか。多目的室や会議室についても用途整理が必要になると思う。

委員 B：多目的室やコミュニティルームの整理が必要。間仕切りで可変性を持たせる工夫も重要である。保健室にはシャワー設備がついていた方が、不測の事態への対応の際助かる。また、各教科の教材（地図や地球儀など）を置く「教材室」のスペースは必要と思う。

委員 C：不登校の子どもたちのための部屋はどうか。

委員 G：不登校傾向生徒の居場所や相談室について、他の生徒の動線と重ならないよう、出入りしやすい位置関係への配慮をお願いしたい。

委員 D：地域に図書館などを開放する場合、学校の管理時間外の運営を誰が担うのか、セキュリティをどう担保するのか。運営面をセットで考えなければならないと思う。

委員 I：和室は必要なのか。

委員 J：以前はクラブ活動などで使われていた。今の状況なら「多目的室や休憩室として使える畳があるスペース」というとらえ方でよいのかと思う。また、畳の

管理は難しいため、畳様のマット敷きなどで対応することも考えられる。

委員A：公園の開放時間は夏場で19時までだが、住民からはもう少し長く開けてほしいという要望もある。学校の運営と公園の利用時間をどう調和させるかも課題と考える。

委員F：学校と公園を完全に分けるのではなく、緩やかな「緩衝ゾーン」のような場所があってもよいのでは。

3. その他

副委員長：委員会の進行が非常にわかりやすく、満足している。子どもたちのワークショップにも感動した。1つ懸念点として、開校までに5年～6年かかるとされているが、現在の中学校、特に築60年を超える西有田中学校の設備がそこまで保つのかを心配している。トイレの問題などもあり、新たな校舎ができる前にソフト面での統合を先行させてもよいのではないかと感じている。

また、町民からは「歴史と文化の森公園の芝生は、なるべく広く残してほしい」という声強い。この素晴らしいロケーションを活かせば、九州で一番の学校ができるのではないかと思う。前向きに頑張りましょう。

委員長：貴重なご提案をいただき感謝する。今後の検討の参考にさせていただく。

4. 閉会

(以上)